

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271100442		
法人名	(株)アミーゴ島根		
事業所名	グループホームゆりさわ 北ユニット		
所在地	島根県 松江市宍道町佐々布2130-1		
自己評価作成日	令和1年8月29日	評価結果市町村受理日	令和元年12月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	令和元年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田畑や山で囲まれ、敷地内には果樹を植樹し、中庭にも植え木があり、身近に自然が感じられるように、季節感を大事にしている。平成15年4月に開所し10年目を迎えているが、木のぬくもりが感じられる家庭的な雰囲気を維持している。
ゆりさわに因んで「ゆったりと穏やかに」「利用者さんのペースに合わせて」「さりげない気配り」「和気あいあいとした明るい雰囲気」をモットーに日々研鑽を積んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や、各ユニットの共有スペースに飾ってあり、意識しながら仕事に取り組んでいる。	開所当初からの理念を継続。年に2回は社長より理念についての話があり、毎月の会議の場でも話をするようにしている。朝礼を毎日2ユニット合同で行う事で、全体把握ができると共に職員の意識統一から理念の共有に繋がってきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事には参加して頂き、交流を続けている。畑で出来た季節の野菜などもってきて下さったり、気持の良い挨拶を交わしている。	自治会に加入し地域の一員として溝掃除や草刈り等の奉仕作業に参加している。専門学校の実習や、職場体験の受け入れ等積極的に行っている。地域から神楽や安来節、音楽関係のボランティアも多くあり交流は盛んに行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事など参加された時など、交流を通して認知症の方への理解や支援方法などを伝えるようにしている。支援方法など尋ねられた時には答えられる様準備は出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催し、状況を報告、意見交換を行なっている。様々な立場の方から意見を頂きサービス向上に活かしている。	家族代表に地域からは民生委員、行政からは担当課か、包括からかのどちらかの参加で定期に開催。利用者の状況に行事、訓練や研修報告を行い、意見交換に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などに参加して頂いたり、必要時には相談等を出来る関係性を作っている。	運営推進会議には毎回参加があり、包括とは空き情報を伝えたり、入所の問い合わせを受けるなどの関係が築けている。生活保護担当職員は年2回訪問があり、普段も受診の様子を伝えるなど、状況報告を密に協力関係が築けるよう取り組んでいる。。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修、現状の確認を行い、都度理解を深めるよう取り組んでいる。安全の為夜間20時から翌朝7時まで施錠している。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、帰宅願望がある場合も一緒に歩き落ちつけるようにしている。虐待を含めて外部研修に参加したり、内部でも様々な事例を共有することで意識するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や会議の中で確認を行い、言葉使いや、介助の仕方など気になる事があれば注意し合える関係性もある。利用者様の言動等、制限しないよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加や、職員全員伝わるよう回覧研修をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、同意書等丁寧に説明を行い疑問点も伺うようにし、納得してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に気軽に話せるようにしている。また、玄関に意見箱を設置している。	年1回家族会を開催している。家族関係者の参加で食事会をメインに、毎年感染症の予防などテーマを考えて取り組んでいる。月に1回は、普段の生活様子を伝える手紙を担当職員が書き、写真と合わせて送っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開いたり、個人面談を行い思いや意見等を聞く機会を設けている。	レベルアップのため毎年4月には今年度取り組む個人目標を提出しており、管理者はそれに関連して必要と認めた場合には、面談を実施して意見を求めている。毎月の会議の場でも呼びかけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や、各自の事情に合わせて働けるよう配慮されている。スキルアップややりがいに向けて研修なども適宜調整されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれ目標を掲げ、必要時にはアドバイス等をされている。研修への参加や働きながらスキルアップ出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や、地域のワーキング倶楽部、グループホーム部会等の参加を通して情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接や入所後には時間を作りご本人の気持を聞きながら安心できる関係づくりに努めている。表情など汲み取り、ご本人の気持を大切にしよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接時等家族の思いや負担感などを伺っている。その後の関係作りにも活かしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談にこられた時に詳しくお話を聞き、最善と思われる対応ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は一緒にして頂きながら暮らせるよう支援している。様々な簡単な作業を提供し、役割を持ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回お便りを送付し情報を伝えている。ご家族が来られた際にはゆっくり過ごせるよう配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人などの面会時にはお茶を飲みながらゆっくり過ごしていただいている。又以前からのかかりつけ医や美容院などを利用していただいている。	地域に目を向けた新たな試みとして、地区の公民館が交流目的で開放している日に、お茶をしに出かけている。今までの関係継続の為に、行きつけの美容院にも職員が付添いで行くよにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々のペースにあわせ、なるべく孤独にならない様に職員が見守ったり、間に入りよい関係性作りを支援している。共同作業等で関係性を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もでも、ご家族からの相談があれば対応している。必要時には、情報提供を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活習慣や個性を理解し、カンファレンスなどで検討している。今何を望んでおられるのかを掴むよう努めている。	家族からの聞き取りを主にしているが、家族でもわからないことがあったり、昔のことで家族も知らないことや、後で段々と伝わることも多くあり、その都度職員間で共有するようにしている。	個々の残存能力を利用することで、個別援助の充実に取り組んでいただきたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの情報や生活歴などを職員で共有している。又、ご本人を支援する中で記録をし、ご本人の生活歴にあった暮らしが出来る様話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団ではなく、個別にその方の1日の過ごし方や、状態を把握し、支援に努めている。毎日の記録からも現状を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向に添った介護計画を作成するようにしている。カンファレンスや、モニタリングで出た意見を反映させている。	遠方や仕事等で家族参加は少ないが、カンファレンスは2か月に1回は本人参加で行っている。定期的にモニタリングを行い、参加が難しい家族関係者には電話等で意見を聞き、計画作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や、アセスメント欄の活用により気づきを大切にしている。情報を共有し、実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、希望に沿って、通院介助、美容院、外泊、買い物など柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員の方にお世話になったり、学生の実習など受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族等の希望を聞きながら、かかりつけ医に受診や往診をして頂き、適切な医療を受け入れられるようにしている。	町内のかかりつけ医に1か月か2か月に1回職員が付添受診している。日々様子を伝えることで指示を得ている。休日や夜間等にも指示が得られる支援体制が確立している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の異変時に看護師に報告し指示をもらっている。又、日頃から状態を報告、相談しながら適切な対応が出来る様務めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者やケアマネ、看護師が医療機関との情報や相談をし対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療連携強化加算の説明等、重度化についての説明と同意書を頂いている。体調の変化があった時にも今後について、家族交え多職種で話し合いをしている。	かかりつけ医との関係は良好で、今までも何件もの看取りを経験している。現在は介護度が回復傾向にある為対象者はないが、本人、家族関係者の希望があれば今後に於いても、話し合いの機会を持ちながら、看取りに取り組む意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や、連絡表を作成してある。また、研修に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。又地域の方にも参加していただいている。	海、川からは遠く水害等にはあいにくい為、火災や土砂崩れを想定して定期的に避難訓練を実施している。隣の施設との合同訓練には、地域の高齢者も消化訓練や避難した利用者の見守りで参加してもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけを心掛けている。個人情報、記録は施設外持ち出さない。	施設内で接遇研修を行ったり、言葉づかいや接し方に関しては、職員アンケートを行い振り返りの機会としている。不適切と思われる場面では注意したり、会議の場では全体のこととして注意を促すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中や会話の中でご本人の思いをさり気なく聞いたり、表現しやすいよう支援している。ご本人が提案し、自己決定できるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその日の様子を確認し、本人のペースに合わせつつ希望に寄り添えるよう務めている。業務優先にならない様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にあわせ、行きつけの美容院を利用したり、移動美容院など活用している。更衣じには好みの洋服を選んでもらうようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好や嚥下状態など個別に対応している。出来る方には下ごしらえ等の手伝いをお願いしている。食事作り際には匂いや音などを感じてもらったり、食材の事など話題に挙げている。	主に調理を担当する職員を配置し、2つのユニットで分けて調理している。野菜の皮むき等の下準備や調理自体ができる人は少なくなったが下膳は手伝う方がある。臭いや調理の際の音など五感の刺激に繋がるよう考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ゼリーや栄養補助食を準備している。又、十分な栄養や水分摂取ができるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの大切さを説明しながら支援をしている。又、個々の状態に合わせ声がけや、スワブ等で介助し口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員で共有し、トイレでの排泄が行なえるよう支援している。また、パットの種類等個々にあわせるよう話合っている。	有料のオムツ研修に参加。介護度5の方は定期交換しているが、個々に合わせて紙パンツや布パンツを使用している。介護度が回復傾向にあるため見守りを主に、声がけしたり必要に合わせて介助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	本人の体調等に合わせ、ヤクルト、牛乳等を提供し自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングに合わせて入浴が出来る様支援している。	家庭浴槽を使用しており、介護度の高い方の場合は2人介助も行っている。湯船に浸かりたがらない方もあるが、対応を考え2日に1回は入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理にこちらのペースにしないよう、本人の生活リズムに合わせ休息を取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルを活用し、情報共有をしている。副作用等気になることがあれば看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しく過ごして頂けるようレクリエーションを工夫したり、得意な事を活かしたやる気に繋がるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩など外の空気に触れてもらえるよう支援している。又、希望に応じて、買い物等のお出掛けもしている。	花見や紅葉狩り等の外出行事は計画的に実施しているが、普段は受診時が個々の外出の機会になっている。施設前を散歩したり、隣の施設の行事の際の行き来も多くある。できるだけ外気を感じられる機会を増やすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に応じてお金の管理等をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族友人等からの電話の取次ぎや、手紙のやり取りも行なっている。本人の希望に沿うように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースのTVの音量やエアコンの温度明るさは気をつけて調節している。毎日掃除を行い、季節に合わせた飾りや、観葉植物を飾っている。	2つのユニットの真ん中には趣の異なった中庭があり、ダイルームから眺められるようになっている。季節感もあり適度な明るさもある。幹線道路から少し離れているため静か。ダイルームには畳の部屋があり、洗濯物をたたんだり横になったり、縁側のような使い方をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席順の配慮をしている。又、和室やソファをつかい寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを準備して頂き、自宅と同じように居心地の良く過ごせるよう配慮している。	タンスやテレビ、衣装ケース、服かけ等家で使っていた物を持ち込まれている。得意だった習字の賞状をたくさん壁に貼ったり、和太鼓を飾ったりと、懐かしく思い出せるよう部屋づくりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力を見極めて、混乱や、不安がないように務めている。廊下には障害物を置かないなどして安全で自立した生活が出来る様支援している。		